

2024 年 11 月 20 日

会 員 各 位

日鉄エンジニアリング
北九州技術センター 安全衛生協力会

2024 年ー2025 年 年末・年始災害防止活動の実施について

I. 活動の趣旨

ご安全に！ 今年の北九州技術センター安全衛生協力会関係の安全成績は、休業1件、不休業2件及び軽処置12件が発生しています。更に NSE グループ会社を含めると、休業19件、不休業15件、軽処置16件が発生しています。グループ全体では昨年に比べ休業(11件⇒19件)、不休業(13件⇒15件)、軽処置(15件⇒16件)と件数は約2割増となっています。災害の発生原因を分析すると、管理面に起因する災害が多い状況です。作業手順の不備・基本ルールの見逃し・作業手順不履行が散見され、作業前の手順や作業方法の周知・確実な実行により防げた災害が多く見受けられます。年末年始は慌ただしい時期でもあり、安全意識が低下し、災害が多発する傾向にあります。そこで、本期間の活動では年間重点活動事項の再徹底に加え、一人ひとりがしっかり安全に取り組み、災害ゼロを達成させましょう。

当協力会は、日鉄エンジニアリング(株)北九州技術センター殿の『年末年始労働災害防止強調期間活動』を展開するとともに、継続的实施すべき事項を日々着実に実行し、無事故で明るい正月を迎えましょう。

II. 活動期間 : 2024年12月1日～2025年1月15日

III. スローガン : 『 無事故の歳末・明るい正月 』 (建災防)

IV. 重点実施・事項

1. 活動趣旨の啓発

- (1) 日鉄エンジニアリング(株) 安全衛生・環境部長メッセージの配信
- (2) 年末年始啓発声掛け ※ビラはメールで配布
- (3) 安全祈願祭の実施
- (4) ポスター、横断幕の掲示

2. 類似災害の再発防止

- (1) 昨年から現在までに生じた災害事例を再度周知し危険に対する感度を向上させ、
自部門にて類似点がある場合は再発防止対応を総点検する
 - ① 今年の NSEGr の休業災害を主とした事例が反映されているかチェックリストで確認しフォローする
 - ② 日々の KY、節目の KY および朝礼、安全大会での過去災害 DB(SAGUR)の活用を推進する
 - ③ デジタルサイネージを活用した安全情報の展開(過去災害再現動画、安全教育啓発動画等)
- (2) 工事計画審議やリスクアセスメントは店社幹部(室長以上)が必ず参画し対策の漏れを防ぐ
 - ① 安全衛生審査会の確実な実施および審査会での法令・社内ルール準拠の確認を徹底し、リスクアセスメントを実施する
 - ② 作業手順の周知会を作業員全員に実施する
 - ③ 工事計画の際に節目の KY の実施時期、作業変更ルールを定める
 - ④ 管理・監督者は節目の KY を確実に実施し、作業変更・予定外作業発生時には、定められたルールに基づき、RA・KYを実施する
- (3) 店社の管理者層は期間活動中での安全パトロールを必須活動事項とする
管理・監督者は期間活動中に安全パトロールを実施し、一人ひとりの危険意識の持ち方と、行動場面での啓発意識に努める
 - ① 管理・監督者は声掛け・対話型パトロールを実施する
安全パトロールでは、安全行動に対する誉めの声掛けを意識する(しっかり安全帯を掛けてくれているね！等)

- ② 安全パトロールおよび現場巡視時は、現地現場で、過去災害事例に基づいたチェックリストを用い、実行状況を確認する
特に、「墜落・転落」「有害物質（ガス、高温など）接触防止」「酸欠防止」「土砂崩壊防止」「手元工具」に対する危険作業の排除を徹底する

3. 安全設備等の適正な設置の確認

(1) 高所・開口部からの墜落・転落防止設備の確認

- ① 高所作業の計画においては、開口部および開口部近傍での作業について、漏れなく墜落・転落防止措置（囲い、手摺、覆い、防網、安全带取付設備等）、飛来・落下防止措置（立入禁止措置、落下防止ネット、養生シート等）を計画することを指導する
- ② 足場計画においては、標準規格（枠組み・単管）・標準図から逸脱する足場は、必要に応じて構造図や構造計算書を含む詳細計画を確実に行わせ安全性を確認する
- ③ 作業状況の変化を現場・現物で確認した上で、適応した対策を行うことを指導する
- ④ 足場点検は確実に実施する。足場の点検者を指名し、墜落防止対策を重点的にチェックする

(2) 有害物質（ガス、高温など）・酸欠防止対策の徹底

- ① 有害物質を取扱う作業の計画においては、SDS を入手し RA を実施する
- ② 有害物質を取扱う作業では、RA に基づき有害物質との接触を防止または最小化し、保護具を使用する場合は、保護具着用管理責任者を選任し、保護具を管理する。作業にあたっては関係者へ RA の結果の周知を行う。有機溶剤、特定化学物質を取扱う場合は、作業主任者を選任し、作業の方法の決定、作業の指揮、保護具の使用状況の監視等を行うと共に、必要な表示を行う
- ③ 酸素欠乏危険場所または酸素欠乏のおそれがある場所での作業では酸素欠乏危険作業主任者を選任し、作業の方法の決定、作業の指揮、保護具の使用状況の監視等を行うと共に、必要な表示を行わせる。作業前には作業環境測定等（酸素・硫化水素濃度）を行わせ記録する
- ④ 高温物近傍作業では、作業者の接触を防ぐ防護措置を設ける。高温雰囲気作業では、作業時間管理を行い熱中症防止を行う

(3) 土砂崩壊防止設備の確実な設置

- ① 掘削作業を行う場合は調査を行わせ、掘削面の高さが2m以上の場合には地山の掘削作業主任者を選任し、作業の方法の決定、作業の指揮、保護具の使用状況の監視等を行うと共に、必要な表示を行う。また点検者を指名し、作業前・悪天候後の点検を行う。掘削の深さが 1.5m 超の場合には、土留工を検討する（建設工事公衆災害防止対策要綱（土木工事編））
- ② 土止め支保工を設ける場合は、土止め支保工作業主任者を選任し、作業の方法の決定、作業の指揮、保護具の使用状況の監視等を行うと共に、必要な表示を行う。支保工設置後は7日を超えない期間ごと・悪天候後の点検を行う

4. 不安全行動の撲滅

(1) 安全コミュニケーションの推進（施工管理者から作業員への積極的な声掛け）

(2) 指差確認（ひと呼吸運動・AAO 活動など）を全員に周知徹底しリスク（危険）を意識する

- ① 安全大会等を通じ、不安全行動防止に向けた啓発を実施
- ② 指差し呼称の実践と作業行動直前の安全確認を実施する。（DS コンテンツ等を活用し啓発）
- ③ 危険予知（KY）活動強化にて災害リスクを抽出し危険作業の排除を指導する
 - ・管理監督者は、積極的に KY に参加し指導する
 - ・作業前に「一人 KY 実践カード」を活用した一人 KY の実施と、作業の安全確認・点検を確実に行う
 ※一人 KY 徹底のため、TBM 時に一人 KY カードを掲げ、安全唱和などにより携帯を促す

V. 期間中の行事等

1. 12月2日（月） 日鉄エンジニアリング(株)安全衛生・環境部長メッセージの配信
2. 12月2日（月） 年末啓発声掛け ※メールでびう配布し放送で周知
3. 12月13日（金） プラント部会現場パトロール@新門司
4. 1月8日（水） 8:00～ 北九州技術センター安全祈願祭・安全大会@高見神社
5. 1月9日（木） 年始啓発声掛け ※メールでびう配布し放送で周知